

此ノ問題ニ付テハ如上審査ノ程度ニ於テ結局當局ノ言責ニ信賴シテ決議ヲ爲スノ外ナキモノト斷定スルニ至レリ其ノ他本條約ノ條項ニ關シテハ大體ニ於テ支障ノ廉ナシト認ムルヲ以テ此ノ際本條約ヲ承認スルノ最終ノ決定ヲ與ヘラルコト蓋シ已ムヲ得サル所ナリト思料ス仍テ審査委員會ニ於テハ本院ハ國務大臣カ軍部ト協調ヲ整ヘ國防ノ補充計畫ヲ遂行シ且國民負擔ノ輕減ヲ實行シテ本條約ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナキヲ期ストノ言責ニ信賴シテ本件ヲ可決スヘキモノト全會一致ヲ以テ議決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和五年九月二十六日

審査委員長

樞密顧問官 伯爵 伊東 已代 治

審査委員

樞密顧問官	子爵 金子 堅太郎
樞密顧問官	男爵 久保田 譲
樞密顧問官	男爵 山川 健次
樞密顧問官	侯爵 黒田 長成
樞密顧問官	男爵 田健治郎
樞密顧問官	荒井 賢太郎
樞密顧問官	水町 裕六操合
樞密顧問官	六操作合

樞密院議長 男爵 倉富勇三郎 殿

千九百三十年「ロンドン」海軍條約樞密院本會議議事要錄

(昭和五年十月一日)

千九百二十年「ロンドン」海軍條約樞密院本會議議事要錄

- 一、場所　宮中東溜間
- 二、日時　昭和五年十月一日午前十時二十五分開會
- 三、出席者
樞密院側　倉富議長、平沼副議長、伊東、金子、久保田、富井、石黒、山川、黒田、古市、松室、江木、櫻井、田、荒井、河合、鎌田、鈴木、石井、水町、岡田、福田各顧問官（九鬼、石原兩顧問官缺席）
二上書記官長、堀江書記官、武藤書記官
- 政府側　濱口内閣總理大臣、財部海軍大臣、幣原外務大臣、江木鐵道大臣、渡邊司法大臣、井上大藏大臣、依商工大臣、安達内務大臣、町田農林大臣、松田拓務大臣、田中文部大臣、阿部陸軍大臣代理（宇垣陸軍大臣及小泉遞信大臣缺席）
- （説明員）
法制局　川崎長官、金森參事官
- 外務省　吉田次官、松永條約局長、堀田歐米局長、齋藤情報部長、鹽崎書記官、山形書記官、深田事務官、山田事務官
- 海軍省　小林次官、堀軍務局長、榎本書記官、下村大佐、岩村大佐、藤田中佐

四、議事要旨

天皇陛下出御

倉富議長　是ヨリ會議ヲ開キマス。議題ハ曩ニ通知ノ通、千九百三十年「ロンドン」海軍條約御批准ノ件デアリマス。

先例ニ依リ讀會ヲ省略シ、大體ノ議事ニ止マス。議案ノ朗讀ヲ省略シ、審查委員長ノ報告ヲ求メマス。

伊東委員長（審査報告書全文朗讀、但シ條約内容ニ關スル部分省略）

濱口總理大臣 本日ノ議題タル「ロンドン」海軍條約御批准ノ件ニ對シ、此ノ場合簡單ニ政府ノ所見ヲ述べタイト存ジマス。今回ノ「ロンドン」海軍條約ハ、唯今委員長ヨリノ報告中ニ述ベラレタル通、世界ノ平和ヲ念トシテ、競争的軍備ニ伴フ危險ヲ防止シ、且國民負擔ノ輕減ヲ圖ル趣旨ニ出デタルモノデアリマシテ、日英米佛伊五ヶ國代表者ノ署名調印セルモノデアリマスガ、其ノ中日英米三國ノ關スル限りハ、曩ニ「ワシントン」會議ニ於テモ亦「ジュネーヴ」會議ニ於テモ實現ヲ見ルニ至ラナカツタ補助艦ノ制限ヲ協定スルニ成功シ、各艦種ニ亘ツテ制限ヲ實行スルコトヲ得ルニ至ツタノデアリマス。

元來、補助艦保有量制限ニ關スル協定ハ、主力艦ノ協定ニ比シテ一層複雑シタル問題ヲ含ミ、今回ノ「ロンドン」會議ニ於テモ之ガ論議ニ幾多ノ迂餘曲折アリ、終ニ佛伊ノ參加ヲ見ルコトヲ得ナカツタノデアリマスガ、日英米ノ三國ハ、大局ヨリ考察シテ互讓妥協、以テ其ノ成立ヲ見タル次第アリマス。仍テ、今回ノ條約中、補助艦保有量ニ關スル協定ノ結果ハ、我要求ノ全部ニ満足ヲ與ヘタモノデハナク、我既定ノ國防方針ニ基キ案畫セラレタル現作戰計畫ノ維持遂行ニハ兵力不足ヲ生ズルモノデアリマスガ、此ノ缺陷ハ別ニ適當ナル補充ノ途ヲ講ジテ國防上ニ支障ヲ生ゼシメザルコトヲ得ルモノナルコトハ、軍部ノ専門的意見モ亦一致シタル所デアリマス。其ノ補充ノ計畫ハ、目下當局ニ於テ慎重攻究中デアリマシテ、未ダ具體的ノ數字ヲ示スコトヲ得ル場合ニ至リマセヌケレドモ、要スルニ内容ノ充實並ニ術力ノ向上ヲ主眼トスルモノデアリマシテ、其ノ大綱要目ハ審査委員會ニ於テ海軍大臣ヨリ説明致シマシタ通デアリマス。而シテ海軍ノ既定計畫トシテ昭和六年度ヨリ同十一年度迄ノ財政計畫ニ保留シアリタル金額ハ總計約五億圓デアリマスカラ、之ヲ以テ本條約ニ依ル代換建造竝ニ前述兵力ノ補充ニ要スル經費ト國民負擔ノ輕減トニ適宜按配セムトスルモノデアリマス。

本條約ニ對シ、御承知ノ通、米國ハ批准ヲ了シ、英帝國ニ於テモ全英聯盟各邦ノ大部分ハ批准ヲ了シ若クハ其ノ準備完了シ、唯ダ「アイルランド」ニ關シテハ、其ノ批准手續ハ本年十一月同國通常議會ノ開會ヲ待ツベキヤ、又ハ之ヨリモ早ク批准ヲ了シ得ベキ便法アリヤ、未ダ何トモ確報ニ接シマセヌケレドモ、結局其ノ批准ニ故障ヲ生ズルモノトハ想像シ得ラレマセヌ。審査報告中、國務大臣ノ答辯トシテ掲グラレタル部分ニハ、我々ノ説明ノ趣旨充分ニ徹底シ居ラザル箇所モアル様ニ考ヘラレマスガ、事煩瑣ニ至ル嫌ヒガアリマスカラ、茲ニ一々之ヲ指摘スルコトヲ差控ヘマス。此ノ際我國トシテハ、内外ノ情勢ニ稽へ速ニ本案ノ可決セラレンコトヲ望ム次第アリマス。

石井顧問官 今回御諮詢ニ相成リマシタ「ロンドン」條約ニ關スル書類ハ、去ル八月十五日ニ私ハ受領致シマシタ。私ノ記憶ニ依レバ、八月十四日ニ本院ノ審査委員會ガ組織セラレタノデアリマスカラ、一件書類ノ配布ハ、顧問官全部ニ對シ、審査委員タル顧問官ニモ、審査委員會外ノ顧問官ニモ、同時ニ配布セラレタノデアリマス。之ハ當然過ギル程當然ナコトデアリマシテ、改メテ申述ブル必要ナキガ如キモ、事實ハ必ズシモ左様デハアリマセヌ。御諮詢ハ樞密顧問官全部ニ對スルモノデアリマシテ、精査委員タルト否トニ拘ラズ書類ヲ拜見シテ審査スル義務ガアリマスカラ、成ル可ク速カニ書類ノ配布ヲ受ケ度イト思ヒマス。此ノ事ハ嘗テ自分ガ希望ヲ述ベタコトガアリマスガ、今回顧問官一同ニ對シ速カニ書類ガ配布セラレタト云フコトハ進歩改善デアツテ、私ハ之ニ對シ満足スルモノデアリマス。處デ隠ヲ得テ蜀ニ望ムモノデアリマスケレドモ、此ノ際樞密院ノ面目維持ノ爲、名譽ノ爲又權威ノ爲、議長ニ希望シ度キコトガアリマス。

七月二十四日御諮詢ニ相成リ、其ノ後三週間ヲ經過致シテ八月十五日ニ私ハ書類ヲ受取ツタノデアリマス。此ノ三週間ノ間ニ於テ何ヲ爲シタルカニ就テハ、天下囂々トシテ之ヲ批評スル有様デアリマシタ。自分モ亦之ヲ不審ニ思ツタ一人デアリマス。當時新聞ノ報ズル所及他ノ方面ヨリ耳ニシタル所ノ一致シタル報道ニ依リマスレバ、議長ハ總理大臣ニ對シ、軍事參議院ノ奉答書ノ提示ヲ求メタト云フコトデアリマス。之ハ八月四日頃ノコトデアリマシテ、御諮詢

後十日ヲ經テ居リマス。奉答書提示ノ要求ニ對シテハ、總理大臣ヨリ拒絶セラレタトノコトデアリマス。夫レヨリ一週間ヲ經テ初メテ委員會ガ組織セラレマシタ。斯クノ如ク、御諮詢セラレテ後三週間ノ間、顧問官ハ議案ヲ耳ニスルコトモ目ニスルコトモ出來マセンデシタ。私ハ樞密院議長トシテ成ル可ク早ク審査委員會ヲ組織シテ審査ヲ開始スルコトガ適當デアリ、夫レガ樞密院ノ義務デアルト考ヘマス。奉答文ヲ内閣ニ要求スルガ如キモ、各顧問官ニ相談シテ之ヲ爲スベキデアリマス。私個人トシテハ、顧問官ガ御諮詢ニ奉答スル爲、軍事參議院ノ奉答書ノ提出ヲ要求スルコトハ當然デアルト考ヘテ居リマス。顧問官ハ充分ニ軍事上ノ専門知識ヲ有セヌ者デアリマスカラ、軍事參議院ノ意見ヲ参考トスル必要ガアツタノデアリマセウ。又政府當局ガ此ノ要求ヲ拒絶サレルト云フコトモ、一見識デアルト思ヒマス。併シ請求スルコトノ當否ノ問題ハ別トシテ、各顧問官ガ議案ニ付テ何モ知ラヌ間ニ斯カル事ガ起ツテ居タノデアリマス。議長ガ此ノ問題ヲ各顧問官ニ話サレズニ、内閣ト交渉サレタコトハ穩當ヲ缺クト考ヘマス。私ハ決シテ既往ニ遡ツテ、議長ノ行動ガ專横デアリ不規則デアツタコトヲ難ズルノデハアリマセン。今回ノ措置ノ一部ニハ進歩改善ノアツタコトヲ認メ満足ノ意ヲ表シテ居ルノデアリマス。仍テ、將來ニ於テモ、成ル可ク速カニ各顧問官ニ議案ノ書類ヲ配布セラレ、而シテ若シ内閣ニ交渉スベキコトガアラバ、之ヲ各顧問官、又ハ少クトモ精査委員ニ相談サレタル上ニテ、適當ノ措置ヲ執ラルルコトガ至當デアルト考ヘマス。斯クノ如クニシテ、議長ト各顧問官ト和衷協同事ニ當ルコトトナレバ、之ガ朝野ニ對シ樞密院ノ權威ヲ昂メ、最高顧問府ノ職責ヲ盡ス所以ダト考ヘマス。既往ノ事ヲ咎ムルノデハアリマセヌ、不肖樞密顧問官ノ咎位ヲ汚シテ居リマスカラ、樞密院ノ權威ノ爲、議長ニ向テ將來御慎ミアリ度イト云フノデアリマス。之ヨリ政府當局ニ對シ、議案ニ關シ質問其ノ他希望ヲ述べ度イト思ヒマスガ、若シ議長ニ於カレテ、私ノ申述べタコトニ付何カ御意見ガアリマスレバ、政府當局ニ對スル希望ヲ述ブル前ニ伺ヒ度イト思ヒマス。

倉富議長 石井顧問官ヨリ、書類配布ノ件ニ付テ希望ヲ述ベラレマシタガ、此ノ事ニ付テハ、本官ヨリ改メテ申述べ

迄モ無ク、樞密院事務規程ニ、審査報告書ハ附屬文書ト共ニ會議ヲ開ク尠クトモ三日以前ニ之ヲ各委員ニ配達スペシトアリマシテ、從來ハ之ニ依ツテ、審査報告書完了ノ後書類ヲ配布スル取扱トナツテ居リマス。然シ乍ラ、此ノ規程ハ絕對ノモノトハ解釋シテ居リマセヌ、場合ニ依ツテハ、實際ノ便宜ニ依リ、審査結了前ニ配布スルコトヲ適當ト認ムルコトモアルノデアリマシテ、例へバ、議案ガ浩瀚ニテ重要ナル場合ニハ、一ツノ變例トシテ、此ノ方法ヲ執ツテ居リマス。今回ノ場合ニ於テモ、議案ノ重要ナルニ顧ミ、審査結了前ニ配布シタモノデアリマス。書類ノ配布ニハ、政府ト打合セル關係モアリマシテ、今後トモ必ズ御希望ニ添フト云フコトハ言明出來マゼン。又本官ガ奉答書ノ提示ヲ政府當局ニ請求シタ爲ニ審査ヲ遲ラシタト云フ御説デアリマシタケレドモ、事實ニ反シテ居リマス。本官ガ奉答文ノ提示ヲ總理大臣ニ勸告シタコトハ事實デアリマス、ケレドモ、其ノ爲ニ審査ガ延ビタト云フコトハアリマゼン。審査報告書ニ記シテアル通、文書ニ誤寫ガアリマシテ、之ガ訂正ノ手續ヲ濟マセナケレバ書類ヲ配布スルコトガ出來ナカツタノデアリマス。之ガ爲ニ遅レタノデアリマシテ、書記官長ガ下調査ヲスルコトハ、事務規程ニモ明文ガアリマス。今回モ之ニ依リマシテ、訂正ヲ濟マセタ上ニテ配布スルコトトシタノデアリマス。

石井顧問官 私モ事務規程ハ存ジテ居リマス。事務規程ニハ、報告書ト共ニ樞密顧問官ニ配達ストハアリマスガ、同時トハアリマセンカラ、常識上、御諮詢案ノ關係書類ヲ審査終了前ニ顧問官ニ配達スルコトガ出來ヌト云フ理由ハアリマゼン。私ハ既往ノコトヲ云フノデハアリマゼン、將來ノコトヲ希望スルノデアリマス。然ルニ議長ノ御話ニ依ルト文書ノ調査ノ爲、又謄寫ノ誤謬ノ訂正ノ爲ニ、三週間モ費シタト云フコトデスガ、將來モ斯カル事態ガ繰返ヘナレルモノトスレバ、甚ダ心配デ堪マリマゼン。完全ナル文書デナケレバナラヌト云フ町寧過ギル手續ヲ執リ、書記官長及其ノ補助者ヲシテ調査ニ十日モ掛リ、御諮詢後三週間モ費シタ後デナケレバ、書類ヲ配布スルコトガ出來ナイト云フコトハ、町寧過ギル町寧デアリマス。誤謬ガアレバ、樞密院ト政府ト協力シテ訂正スレバ宜シイ、斯クノ如キ町寧過ギル取扱振ハ、適當ト云フコトハ出來マゼン。此等ノ點ニ付、私ノ考ヲ短時間ノ論議ニテ徹底セシムルコトハ、遺憾

ナガラ出来ヌコト思ヒマスカラ、本問題ハ之デ打切リマス。

之ヨリ續イテ、政府ニ對シテ質問致シマス。三大原則ニ付テ質問致度イト思ヒマス。海軍條約ニ關聯シテ生ジタ困難、紛糾ノ原因、國論沸騰ノ原因ハ、總テ三大原則ニ在ルノデアリマス。自分ハ常ニ此ノ點ヲ明瞭ニシ度イト思ツテ居リマシテ、其ノ考デ報告書ヲ讀ンデ見マシタ。然ルニ報告書ニハ「ロンドン」會議ノ開催ニ臨ミテ、政府ハ既定ノ國防方針ニ基キ三大原則ヲ定メタト云フコトガ書イテアリマス。私ハ三大原則ハ此ノ度ノ會議ニ當ツテ出來タモノト思ヒマス。我ガ全權委員ニ對スル訓令中ニハ勿論掲記シテアツタノデアリマセウ、海軍大臣及海軍官憲ハ、會議開催前ニ頻リニ之ヲ高調セラレ、國防上ノ最低限度デアル、此ノ限度ガ些少デモ缺クレバ國防危シト宣傳シテ、民衆ヲ教育セラレタト考ヘテ居リマス。専門知識ヲ有セヌ民衆ハ、此ノ宣傳ヲ其ノ儘信シテ、其ノ文字通ニ教育セラレ、少シデモ此ノ原則ガ缺ケレバ國防危シト考ヘ、天下舉ツテ心配シマシタ。其ノ様ナ事ハナイ筈デアルト信ジテ居タ自分ナヘモ遂ニ氣ニ掛ケル様ニナツタノデアリマス。然シ乍ラ報告書ニ依レバ、右原則ハ次回會議開催ノ場合必ズシモ提出スルモノトハ限ラヌトノ政府當局ノ説明デアツタト云フコトデアルカラ、私ハ些カ安心致シマシタ。當今國內ニ喧傳セラル國防危シトノ議論、牽ヒテ恐米論ノ原因ハ、實ニ此ノ原則ニ在ルノデアリマス。故ニ、此ノ點ニ付テ判然政府ノ意見ヲ伺ヒ度イノデアリマス。「ジュネーヴ」會議ノ際ニハ、此ノ原則ハ無カツタト思ヒマス、訓令中ニハ勿論掲記セラレナカツタノデアリマス。

「ジュネーヴ」會議ニ當リテ日本全權ガ受ケタ訓令ニハ七割比率ヲ標準トスルト云フ趣旨ノコトガアリマシタ。併シ、七割ヲ見當トシテ居タカモ知レナイガ、之ガ少シデモ缺ケレバ國防ヲ心配サセル様ナ文面デハアリマセンデシタ。軍備縮少ノ爲ニ開イタ同會議ニ於テ、英國ハ其ノ特殊ナル地理的事情ヲ理由トシテ、老大ナ要求ヲ提示シタノデアリマス。帝國ハ之ニ對シ、巡洋艦驅逐艦ヲ併セ、英國ニ於テ四十五萬噸ニ引下グルコトヲ提議シマシタ。米國ハ主義トシテ之ニ賛成シタノデアリマスガ、英國ハ六十二萬噸ハ是非トモ必要ナリト主張シテ、紛糾シタノデアリマス。英米ガ四十

七、八萬噸迄引下グルナラバ、日本ハ三十一萬噸迄已ムヲ得ズ進ムコトトシャウト云フコトヲ、卒直ニ日本ヨリ提議致シマシタガ、英國ハ之ニ應ジマセンデシタ。米國ハ、日英兩國間ニ妥協出來レバ之ヲ認メルト云フ趣旨ノコトヲ公開ノ席上ニ於テ聲明スルト云フ、大變都合ノ好イ地位ニ立ツテ居リマシタ。此ノ様ナ事情デ、日本トシテハ先ヅ英國トノ妥協ヲ付ケル必要ヲ感ジ、日英專門委員ノ間ニ、所謂小林「フィールド」妥協案ヲ作ルコトニナツタノデアリマス。

右妥協案ノ水上補助艦各艦種ニ關スルコトハ、複雜デアリマスカラ茲ニハ申述ベマゼン。潛水艦ハ、日英米各六萬噸デアリマシタ。主題ヲ離レテ横途ニ這入ル嫌ヒガアリマスガ、私ノ論旨ヲ明白ニスル便宜ガアリマスノデ、「ジュネーヴ」會議ニ付テ申述ベルノデアリマス。世ノ中ニハ、今回ノ會議ニ於テ帝國ガ英米ヨリ無理ナル比率ヲ押付ケラレタト云フコトヲ信ジテ居ル者ガアリマス。之ニ依テ國民中ニ、米國ニ對シ不平ヲ抱ク者ガ生ジタノデアリマス。三大原則ガ破ラレタト云フノデ、國防不安ノ心配ヲ生ズルニ至ツタノデアリマス。「ジュネーヴ」デハ、日本全權ハ訓令ノ範圍内デ、巡洋艦驅逐艦ノ保有量、英米ハ四十八萬噸、日本ハ三十一萬噸ト提議致シマシタ。今回ノ米國提案ハ、「ジュネーヴ」會議ニ於ケル日本ノ提案殆ド其ノ儘デアリマシテ、日本ガ英米ヨリ押付ケラレタト云フノハ、飛シデモナイ間違デアリマス。斯クノ如キ誤解ガアルコトハ、甚ダ殘念ナ事デアリマス。私ハ此ノ真相ヲ國民ニ知ラセ度イト思ヒラレルノハ容易ナコトデアリ、又適當ナコトデアルト考ヘマス。過去三年間ニ國際關係ガ惡化シタ、即チ「ジュネーヴ」ニ於テ日本ヨリ提議シタ時ト今度妥協案ノ出來タ時トノ間ニ、國際關係ガ惡化シタト云フナラバ免モ角、ソウイフ變化ハアリマゼン、寧ロ不戰條約ガ成立シテ、平和ニ一步ヲ進メタノデアリマス。昭和二年當時ヨリ、海軍ノ要要求ガ増ス筈ガナインデアリマス。然ルニ、今日ニ於テ三大原則ハ既定ノ國防方針ニ基クモノデアルト云ハルルナラバ、

其ノ既定方針ハ何時出來タモノデアリマセウカ？何時議會ノ代表者ニデモ内諾ヲ得ラレタモノデアリマセウカ？潛水艦ニ付テハ、「ジュネーヴ」會議ノ際ニハ我首席專門委員デアツテ充分ニ海軍ノ専門知識ヲ有スル小林中將ガ、六萬噸デ安全ト認メラレタノデアリマス、然カモ當時ノ海軍大臣及軍令部長ニ於テ之ヲ撤回セヨト云ハレタル事實ハアリマセン。仍テ、自分ハ何故ニ六萬噸ヲ七萬八千噸ニ増加シナケレバナラヌコトナツタカ、其ノ理由ヲ解スコトガ出来マセン。私ハ當時專門委員ノ意見ヲ徵シテ、潛水艦ハ六萬噸ニテ充分ナリトノ考ヲ有シテ居ツタノデアリマスガ、「ジュネーヴ」會議以來、何等國際關係ニ於テ我國ノ地位ガ惡化シタ云フ形勢ガアリマセンカラ、今日ニ於テモ六萬噸ニテ充分ナ苦デアルト考ヘルノデアリマス。此ノ點ニ關シ政府當局ノ確答ヲ求メマス。又補充計畫ニ付テ、總理大臣ハ適當ナル補充ト云ハレマシタガ、何ヲカ適當ナル補充ト云フノデアリマセウカ？「ジュネーヴ」會議當時ノ潛水艦六萬噸ガ、今回ノ會議ニ於テ五萬二千七百噸ナリ、七千三百噸ノ減少ヲ來タンシタコトハ、論理上ハ缺陷ト云ヘルデシタモノデアリマシテ、米國ハ今回ノ條約ニ於テ日本以上ノ縮少ヲ爲シテ居ルノデアルカラ、我國トシテ潛水艦七千三百噸ノ減少ニ付テモ、素人考ヘトシテハ、補充ノ必要ガナイモノト思ヒマス。尤モ專門家ニ於テ夫レハ補充ノ必要アリト云ハルルナラバ、自分トシテハ論理ノ一貫ノ爲ニ、潛水艦七千三百噸ニ付テハ其ノ意見ヲ認メナケレバナラヌデセウ。併シ補充ノ要アリトシテモ、其ノ程度ハ七千三百噸ニ限ラルモノデアルト思ヒマス。今度ノ會議ニ於テ、水上補助艦ハ、英國ガ四十八萬噸、米國四十七萬噸、日本三十一萬噸ト協定セラレマシタガ、之ハ「ジュネーヴ」ニ於ケル日本ノ提議ト殆ド同ジデアリマス。而カモ米國ハ少シク減少シテ居リマス。「ジュネーヴ」會議ノ當時カラ八時砲艦ニ付テ議論ガアツタノデアリマスカラ、艦種ヲ區別シタ日本ノ主張モアツタデアリマセウガ、全權トシテハ、水上補助艦ヲ總括シテ英米四十八萬噸、日本三十一萬噸ト云フ提議ヲ爲シ得タ程度ノモノデアリマス。從テ今回ノ國防補充計畫ト云フコトハ、水上補助艦ニ付テハ必要ガナイモノデアツテ、潛水艦ノ補充計畫ニテ盡キル譯デアリマス。我

國現有潛水艦ハ六萬噸デアリマス。「ジュネーヴ」ニ於テハ此ノ六萬噸ニ承諾ヲ與ヘタノデアリマス。故ニ已ムヲ得ナイナラバ、潛水艦七千三百噸以内ノ程度ニ於テ補充スル必要ガアルコトヲ認メマスガ、政府ノ保留財源約五億圓中ヨリ、補充計畫ハ今述べタル潛水艦七千三百噸ノ程度内ニ實行ヲ止メ、其ノ他ハ盡ク國民負擔輕減ニ充ツルト云フコトガ至當デアリ、海軍トシテモ、斯クスルコトガ從來ノ主張ヲ遂行スルコトデアリ、又之ガ國民ノ要望ニ副フ所以デアルト信ジマス。

本條約ニ付テハ、外國ヨリ何等ノ壓迫ヲ受ケタモノデナク、日本ハ其ノ持説ヲ變更シナイ限り當然之ヲ承諾スル地位ニ在ルモノデアルガ故ニ、私ハ本條約ニ賛成スルモノデアリマス。委員長ノ述ベラレタル報告末段ニ、本院ハ、國務大臣ガ、軍部ト協調ヲ整ヘ國防ノ補充計畫ヲ遂行シ、且國民負擔ノ輕減ヲ實行シテ、本條約ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナキヲ期ストノ言責ニ信賴シテ、本件ヲ可決スベキモノト、全會一致ヲ以テ議決シタ云フコトガ掲ゲテアリマスガ、此ノ結論ニ導イタ論據ニ付テハ意見ヲ留保シ、結論自體ニ賛成ヲ表スルモノデアリマス。

之ヲ要スルニ、私ノ質問ハ、第一ニ、三大原則ガ何時出來タモノデアルカ？既定方針ニ基イタモノデアルナラバ、既定方針ハ何時出來タモノデアルカ？ト云フコトニ付、政府當局ノ説明ヲ得タイト云フノデアリマス。本條約ニ關聯シテ生ジタ疑惑紛糾ハ、總テ三大原則ニ基クモノデ、其ノ真相ガ明白ニナレバ、國防上ノ危惧モ對米恐怖論モ一掃スルコトガ出來ルモノデアルカラ、三大原則ノ性質ニ付テ政府ノ所見ヲ明瞭ニ承知シ度イノデアリマス。次ニ、補充計畫ニ付テハ、巡洋艦驅逐艦ハ、「ジュネーヴ」デ提議シタ通ノ噸數ヲ得タノデアルカラ、補充ヲ必要トシナイ、若シ補充ガ必要デアリトスレバ、潛水艦七千三百噸ノ程度ニ限ラル苦ノモノデアルト考ヘルノデアルガ、政府ハ如何ナル程度ノ補充ヲ行フ意嚮デアルカラ承知シ度イノデアリマス。

財部海軍大臣 第一二、三大原則ハ、昭和二年「ジュネーヴ」會議當時ニハナカツタノデアツテ、何時成立シタカト云フ御質問デアリマシタガ、無論當時ハ三大原則ナルモノハアリマセンデシタ。精確ニ申上グレバ、今回ト雖モ三大原則

ト云フモノヲ掲ゲテ全權ニ訓令シタク、又ハ何等カノ公然タル形式ヲ以テ之ヲ世間ニ聲明シタコトハアリヤセん。然ラバ、何故ニ三大原則ナル名稱ガ世間ニ喧傳セラレ、本院ノ報告書ニモ書カレルコトニチツタカト云フ疑問ガ起りマスガ、之ニ答ヘルニハ、少シク過去ニ遡ツテ説明致サネバナリマセん。『ワシントン』會議ニ於テ、日本ハ可能敵ノ七割見當ヲ必要ト認メテ、當時之ヲ主張致シマシタガ、目的ヲ達シナイデ、主力艦ノ比率ハ六割ニ落付イタノデアリマス。所謂西太平洋ニ於ケル防備現狀維持協定ヲ條件トシテ、六割ニ落付イタノデアリマス。「ジュネーヴ」ニ於テモ補助艦七割ガ自安デアリマシタ。總括的七割ノミトイフ譯デハアリマセん、内容ハ煩瑣デアリマスカラ詳シクハ説明致シマセンガ、八時砲艦其ノ他各艦種ニ付テモ、種々ナル要求ガアツタノデアリマス。石井顧問官ノ云ハレタ潜水艦ニ付テ申シマスレバ、日本ハ七萬噸ヲ主張致シマシタ。之ハ今日ノ七萬八千噸ヲ要求シタト同一ニナルノデアリマス。當時ハ八百噸以下ノ潛水艦ハ制限外ニ置クト云フコトヲ述ベラレマシタガ、當時モ潛水艦ニ付テハ現有勢力ヲ主張シタノデアリマス。日本ノ持ツテ居ル潛水艦ノ中ニモ八百噸以下ノモノガアリマス、其ノ八百噸以下ノモノヲ除クト、現有勢力ハ七萬噸ニナルノデアリマス。次ニ石井顧問官ハ、日英専門委員委協案ニ對ンテハ、日本ノ中央部ヨリ之ヲ否定シナカツタト云フコトヲ述ベラレマシタガ、當時海軍部内デハ喧シイ議論ガアツタノデアリマス、其ノ時ノ専門家協定ハ、補助艦ノ總括ハ六割四歩位デアツテ、八時砲巡洋艦ニ付テハ八割位ノ有利ナ比率デアリマシタガ、總括的比率ガ七割ニ足ラスト云フノデ、海軍中央部ヨリ否認セラレタノデアリマス。

今回ノ會議ニ臨ムニ當ツテモ、日本海軍ノ潛水艦ニ關スル主張ハ現有勢力ノ維持デアリマシテ、潛水艦ニ付テハ、海軍ニ於テ銳意完成ニ努メ、七萬八千噸ノ現有勢力トナツタノデアリマス。八時砲巡洋艦ニ付テハ、「ジュネーヴ」會議ノ時ト比較スレバ、今日ニ於テハ八時砲巡洋艦ノ優越性ヲ痛感スルニ至ツタソデアリマス。「ジュネーヴ」會議ニ於テ之ヲ輕視シタト云フ譯デハアリマセンガ、其ノ後各國ニ於テ八時砲艦ガ竣工シ、現實ニ其ノ優越性ヲ認メテ一層重要視スルコトニナツタノデアリマス。今回ノ會議ニ臨ムニ當ツテハ、補助艦總括的七割ノ外ニ、八時砲艦モ是非七割ヲシタカラ、自然世間ガ之ヲ三大原則ト云フ様ニナツタノデアリマス。

「ワシントン」會議ニ於テハ、補助艦ニ付テ七割ハ通リマセンデシタ。其ノ時ニハ、日本全權ハ補助艦ニ付テモ六割ヲ認メタルガ如キ趣旨ノ聲明ヲシタノデアリマス。「ジュネーヴ」ニ於ケル、日英専門家假協定案モ六割三、四歩デアリマシタ。從テ海軍内ニ於テ、軍縮問題ヲ専門ニ研究シテ居ツタ者ノ間ニハ、今回ノ會議ニ於テモ、補助艦七割ノ貫徹ハ頗ル困難デアルト云フ考ガアリマシテ、會議ニ臨ムニ當リ色々研究シタ結果、訓令ニ三大原則ニ當ル我ガ要求ヲ掲記シ、謂ハバ背水ノ陣ヲ敷イタノデアリマス。又朝野ニ我ガ要求ノ諒解ヲ得ル爲盡力致シタノデアリマス。其ノ際、海軍軍人ノ中ニ、國民ニ説明スルニ當ツテ、熱心ノ餘リ少シク脱線シタ者ハアツタデアリマセウ。此ノ要求ガ貫徹シナケレバ國ガ滅亡スルト云ツタ者ガアルカモ知レマセン。殊ニ若イ士官ノ中ニハ其ノ様ナコトガアツタカトモ思ヒマス。又之ヲ本當ニ信ジテ居タ者モアツタデアリマセウ。然シ乍ラ、此ノ爲ニ國論ガ沸騰シタト云フ様ナコトハナイト考ヘマス。今回ノ條約ニ於テハ、補助艦總括六割九步七厘ヲ得タノデアリマシテ、我七割比率ノ要求ハ貫徹シタルモノト考フルコトモ出來マス。

次ニ、石井顧問官ハ、三大原則ハ動カシテモ危険ガナイト云フコトヲ了解セシムルノ必要ガアルト述べラレマシタケレドモ、之ハ程度ノ問題デアリマシテ、即チ昭和十年ノ會議ノ準備ノ必要モアリマスノデ、今日三大原則ノ變更ニ付

テ國民ノ了解ヲ求ムル時期デハナイト信ジマス。石井顧問官ハ三大原則ヲ次回會議ニ主張スルヤ否ヤト御質問ニナリ
マシタガ、此ノ次ノ會議ニ臨ムニ當ツテハ、今回以上ニ研究ヲ重ネ、其ノ時ノ状勢ニ應シテ最善トスル方策ヲ樹テル
ベキデアルト思ヒマスカラ、今日茲デ次回會議ニ對スル方策ヲ申述べコトハ早計デアルト考ヘマス。補足的ニ申述べ
テ置キ度イノハ、或國ガ或會議ニ於テ或提案ヲ爲シタカラト云ツテ、何時モ同ジ提案ヲ爲サナケレバナラヌト云フコ
トハナイ、時ト場合トニ依ツテ提案モ變化スルト云フコトデアリマス。現ニ米國ハ「ワシントン」會議ノ際ニ於テハ
潛水艦ノ廢止ニ就テハ強硬ニ反対シタノデアリマスガ、今回ハ英國ノ潛水艦全廢ノ主張ニ賛成シタノデアリマス。日
本モ「ワシントン」會議ニ於テハ補助艦六割デ宜シトイ云フコトヲ申シマシタケレドモ、今回モ矢張リ六割デナケレ
バナラナイト云フコトハナインデアリマシテ、十年前ト異ナル主張ヲスルノハ當然デアリマス。

尙ホ補充計畫ノ點ニ就テハ、私カラ申上グマスヨリモ總理大臣カラ云ハレル方が適當デアルト思ヒマスカラ、總理大
臣ノ説明ニ譲リマス。

濱口總理大臣 補充計畫ノ問題ニ付キマシテハ、既ニ委員會ノ審查報告中ニ、大體政府ノ説明ヲ良ク書カレテ居リマス
カラ、此ノ場合、報告中ノ説明以外ニ詳細ニ申上ゲル必要ハナイト思ヒマス。石井顧問官モ詳シク具體的ニ説明ヲ要
求サレテ居ナイ様デアリマスカラ、此ノ點ハ詳シク説明致シマセン。要スルニ、本問題ノ補充計畫モ負擔ノ輕減モ當
局ニ於テ熱心ニ研究中デアリマス。其ノ具體案ハ今秋ノ豫算編成期ニ至ル迄ハ確定セヌノデアリマシテ、報告書中ニ
掲グラレタル要目以上ニ具體的ニ詳細ニ亘ツテ申述ベル材料ガナインデアリマス。

石井顧問官 私ノ聞カント欲スル所ハ、具體的ノ計畫デハアリマセン。私ハ政府ニ具體案ノ提示ヲ求メタノデハアリマ
セン。報告書中ニハ、政府ハ大體ノ方針ヲスラ示サズトアリマス。然ルニ總理大臣ハ、委員會ニ於テ補充計畫ヲ説明シ
タリト述べラレタノデアリマス。私ハ條約カラ生ズル當面ノ問題ナル負擔輕減ニ付テ、大綱要目ヲモ示サザルニ於テ
ハ、樞密顧問官ニ於テ本條約ヲ審査スルコト困難デアルト考ヘマス。仍テ私ハ、主義トシテ、如何ナル部分ヲ補充計

畫ニ充テ、如何ナル部分ヲ國民負擔輕減ニ充ツルカノ大體ノ目安ニ付テ、案ヲ具シテ政府ノ意見ヲ聞イタノデアリマ
ス。例ヘバ、潛水艦七千三百噸ノ程度デ補充ハ充分デアラウト云フコトヲ聞イタノデアリマス。新聞ニ依ルト、米國
ニ於テモ補充計畫ガ審議サレテ居ルト云フコトデアルガ、補充計畫ノ程度ノ目安ヲ定メナケレバ、結局國際間ニ補充
計畫ノ競争ガ起ルニトニナルデアラウ。仍テ此ノ際補充計畫ノ程度ニ付、政府ノ所見ヲ承知致度イト思ヒマス。

濱口總理大臣 石井顧問官ノ再度ノ御質問ニ對シマシテ、御答へ致シマス。伊東委員長ノ報告中ニ、政府ノ意見ガ引用
セラレテ居リマス通、政府ハ昭和六年度乃至十一年度ニ於テ、約五億圓ヲ以テ代換建造ト補充計畫ト國民負擔輕減ト
ニ適宜接配スル心算デアリマス。此等三者ハ相互ニ關係スルモノデアリマスカラ、一方ガ決定セナケレバ他方モ決定
スルコトハ出來マゼン、從テ豫算ヲ離レテハ説明スルコトガ出來ヌノデアリマス。補充計畫ノ大綱要目ハ、委員會ニ
於テ説明致シタル所ノ要領ガ審査報告中ニ掲グラレテ居リマス、即チ「然ラバ本條約ニ依ル兵力ヲ以テシテ帝國國
防ノ安全ヲ期スルコトヲ得ルヤ否ヤ、之ヲ當局大臣ハ、右兵力ヲ以テシテハ、從來ノ國
防方針ニ基ク作戦計畫ノ維持遂行上或ハ困難アラムモ、一面ニハ輕巡洋艦及驅逐艦ニ於テ豫期以上ノ保有量ヲ獲得セ
ルアリ、更ニ他面ニハ代換建造ノ權利ヲ適當ニ實行スルノ外、例ヘバ既成艦船ノ整備、裝備ノ改善、制限外艦船ノ整
備、航空機ノ擴張等所謂內容ノ充實ヲ圖リ、且兵員ノ訓練教養ノ改善、乘組定員ノ增加等所謂術力ノ向上ニ努ムル等
ノ補充方法ヲ執ルニ於テハ、略ボ國防ノ安全ヲ期スルコトヲ得ベシト信ズ」ト答ヘタアリマス。之ガ補充計畫ノ大
綱要目デアリマス。今日ノ所、之以上説明シ得ナイノハ遺憾デアリマスケレドモ、此ノ程度ニテ御諒解ヲ求ムル外ナ
イノデアリマス。

石黒顧問官 私ハ報告書ヲ讀ンデ詳細ニ研究致シマシタ。本條約ニ對シテハ幾多ノ疑義ヲ持テ居リマス。然シ政府ノ答
辯振ニ依レバ、審査委員會ニ於ケル答辯以上ノコトハ云ハレヌト思ヒマスカラ、唯ダ一點丈ヲ質問致度イト思ヒマス。
ソレバ、報告書中ニ「近時國內ノ情勢大ニ憂慮スベキモノ現レ、本條約批准ノ成否永ク未定ナルトキハ、政治上經濟

上不安ヲ惹起シテ、社會ニ及ボス影響多大ナルモノアルベキガ故ニ「トアリスガ、ソレハ如何ナル意味デアリマスカ？」

濱口總理大臣 御尤モノ質問デアリマス。多少時間ヲ要シマスガ、御了承願ヒマス。

倫敦條約ニ關シテハ、樞府御諮詢前ヨリ、政界ニ及ボスベキ影響等ニ付テ、世ノ中ニ兎角ノ風評ガアツタノデアリマス。事ヲ好ムノ徒ガ、之ニ和シテ種々ノ臆説ヲ流布致シマシテ、爲ニ政界ノ不安ト財界ノ不和ヲ招クノ徵候ガアリマシタ處、七月二十四日愈々本條約ノ御諮詢トナリ、樞府事務局ノ下審査ヲ經テ、八月十八日始メテ第一回ノ審査委員會ガ開會セラレマシテ、爾來九月十七日ニ至ル迄、日ヲ經ルコト五十餘日、委員會ヲ開クコト十二回、其ノ間都下ノ新聞紙ハ、委員會ノ議事ガ祕密デアツテ其ノ真相ヲ知ルコトガ出來マセヌ爲ニ、妄ニ揣摩臆測ヲ逞フシテ種々ノ記事ヲ掲載シマスル、ソースルト、事情ヲ知ラナイ讀者ハ、或ハ條約ノ運命ニ付テ一點ノ疑ヲ挾ミ、或ハ樞府ト政府トノ衝突ヲ危ムニ至リマシテ、各種ノ團體ガ此ノ間隙ニ乘ジテ策動ヲ試ムルモノ續出シテ參リマスルシ、又色々ノ文書一中ニハ怪文書ト目セラルモノモアリマスガ一或ハ公然ト頒布宣傳セラレ、或ハ祕密裡ニ各方面ニ散布セラレ、離間中傷至ラザルナシト云フ有様デアリマシタ。ソレガ爲メ、人ヲシテ何レガ眞、何レガ偽、何レガ是、何レガ非デアルカト云フコトヲ辯別セシムルコトガ出來ナイ様ナ狀態デアリマシテ、爲ニ一般ノ人心ヲシテ、一種言フベカラザル不安不愉快ニ陷ラシメタコトハ、蔽フベカラザル事實デアリマス。左ナキダニ社會ノ人心ガ何トナク平靜沈着ヲ缺イテ居ル今日ノ場合ニ於テ、此ノ如キ狀態ガ長ク繼續スルコトハ、決シテ喜ブベキ事柄デハナイノデアリマス。而カモ條約案ノ運命ガ未定ノ狀態ニアル間ハ、此ノ種不安ノ狀態ハ終熄スルコトヲ望メマセヌノミナラズ、人心ノ不安ハ日々ノ新聞ノ記事ヤ其ノ他色々ノ惡宣傳ニ刺戟セラレテ、益々甚シキヲ加フルノ傾向歷然タルモノガアツタノデアリマス。特ニ政府ノ最モ憂慮ニ堪ヘナカツタコトハ、財界ノ問題デアリマス。我國財界ノ現狀ハ、金解禁ノ善後策ニ加フルニ、世男の大不景氣ノ影響ヲ受ケテ、之ニ善處セナケレバナラヌ處ノ最モ大切ナル時デアリマス。一定ノ方針ニ則ツテ、官民一致最善ノ努力ヲ爲スニアラザレバ、或ハ國民經濟ノ前途ヲ誤ルノデハナイカト云フコトヲ恐ルルノデアリマス。

此ノ時ニ當リマシテ、樞府對政府ノ關係カラ政界ノ不安定ガ久シキニ涉リマストキハ、近頃頗ル神經過敏ニ陥ツテ居リマスル財界ノ人々ハ、何時ナンドキ政變ノ爲ニ政府ノ財政經濟政策ニ大ナル變更ガアルカモ知レヌト云フ心配カラ、事業界金融界ノ人々ハ、安心シテ其ノ事業ヲ經營シ其ノ業務ニ從事スルコトガ出來マセヌ、唯ダ手ヲ束ネテ空シク成行ヲ傍観スルノ外ハナイノミナラズ、色々ノ流言蜚語ガ其ノ間ニ行ハレテ財界ヲ惑亂シ、公債ヲ始メ各種ノ有價證券市場ハ動搖シテ少シモ安定スルコトガ出來マセヌ。一體政界ノ不安、政變ノ思惑ト云フ様ナ事モ、平常無事ノ場合ニ於キマシテハ、財界ニ左程重大ナル影響ハナイ旨デアリマスルケレ共、何シロ今日ノ財界ハ、金解禁ノ實行サレテカラ未ダ遠クアリマセヌ、從ツテ金解禁ノ影響ガ未ダ鎮靜スルニ至ツテ居ナイニ拘テテ加ヘテ、前申ス通、世界的不景氣ノ影響ガ相當深刻デアリマシテ、財界ノ人心ガ頗ル神經過敏トナツツテ居ル折柄、學者、新聞雜誌記者ノ一部ノ間ニ、豫テヨリ寧ロ學究的好奇的ニ唱ヘラレテ居タ所ノ平價切下解禁論ナルモノガ、財界ノ不安ニ乘ジテ頓ニ氣勢ヲ昂メ、株式市場ニ關係アル者等ガ投機思惑的ニ此ノ說ヲ利用スルニ至リマシタノミナラズ、果テハ政界財界ニ於テ相當ノ地位ヲ有ツテ居ル一部ノ人々、特ニ財界ノ現狀ト其ノ前途ニ付テ非常ニ悲觀的ノ意見ヲ有ツテ居ル人達ガ、故意デアルカ眞面目デアルカ知リマセヌガ、次ノ内閣ハ或ハ金ノ輸出禁止ヲ斷行シ、其ノ結果爲替相場ガ或程度ニ下落シ、其ノ下落シタ相場ガ最早安定シタ時分ヲ見計ツテ、其ノ下落ノ程度ニ應ジテ平價ヲ切り下ゲテ、再ビ金ノ解禁ヲ實行スルト云フ政策ヲ取ルノデハナイカトノ觀測ガ、財界ノ或方面ニ行ハルニ至リマシテ、中ニハ或ハ衷心之ヲ信用スルモノモアリマシタロウガ、中ニハ信用ハナクシテモ、財界ニ於ケル斯カル危惧心ヲ利用致シマシテ、私利私益ヲ圖ルノ道具ニ使フ者モアリマシタ。此ノ如キ現象ハ、識者ノ常識ヲ以テシテハ想像スルコトモ出來ナイコトデアリマスケレ共、何シロ神經ガ事ノ外過敏ニナツテ居ル近頃ノ財界ノコトデアルカラ、此等ノ虛實混淆ノ宣傳ヤ思惑ガ、案外今日ノ財界ニ實質的ノ影響ヲ及ボスニ至ツタノデアリマス。

其ノ最モ顯著ナル事實ハ、正貨ノ海外流出デアリマス。金解禁ノ下ニ於テ、上半期ノ輸入期ニ相當ノ正貨ガ流出スル

コトハ怪ムニ足ラナイコトデアルケレドモ、下半期ニナツテ出超ノ時期ニ入り、而カモ年末ノ輸入期ヲ距ルコト尙ホ遠キ最近ノ時機ニ於テ、相當巨額ノ正貨ノ流出ヲ見タト云フコトハ、其ノ原因ガ他ニモアリマセウケレ共、其ノ主ナル原因ハ、政界財界ノ人達ガ、樞府ニ於ケル條約案審議ノ進行ノ遅タル所カラ種々ノ臆説ヲ逞フシテ政界ノ不安ヲ傳ヘ、政界ノ不安カラ聯想シテ金ノ輸出再禁止―新平價解禁ヲ氣構ヘテ爲替相場ノ動搖トナリ、正貨ノ流出ヲ見ルニ至ツタモノト思ハルノデアリマス。ソレ故ニ樞府ノ審議ニシテ尙ホ此ノ上長ク決スル所ナク、延イテ政界ノ不安ガ去ラザルニ於テハ、上述ノ如キ傾向ハ益々顯著トナリ、其ノ結果財界全般ニ如何ナル憂フベキ現象ヲ見ルニ至ルヤモ測リ難イノデアリマス。條約案審議ノ成行ニ付テ政府ノ最モ憂慮シタルハ、實ニ此ノ點ニアツタノデアリマス。幸ニ審査員各位ニ於カレテハ、國家ノ重キヲ念トセラレ、速ニ條約案ノ審議ヲ了セラレ、全員一致ヲ以テ本案ヲ可決セラマシタカラ、九月中旬以來ハ漸ク政界ノ安定ヲ見ルニ至リ、延イテ此ノ方面ヨリ來ル財界ノ不安ヲ除クヲ得ルニ至リマシタコトハ、政府ノ深ク喜ブ所デアリマス。

石黒顧問官 總理大臣ノ御説明ハ良ク了解致シマシタ。私ハ本條約ニ付テ幾多ノ疑義ヲ持テ居リマシタガ、嚴正且綿密ナル報告ヲ敬ヒ且信ジ、本案ニ賛成致シマス。

倉富議長 他ニ發言モ無イ様デアリマスカラ、決ヲ採リマス。賛成ノ各位ノ起立ヲ求メマス。

(全員起立)

倉富議長 全會一致可決セラレマシタ。之ニテ閉會致シマス。

天皇陛下入御

午后十二時三十分散會

千九百三十年「ロンドン」海軍條約經過概要（内閣記録）

昭和五年七月二十三日

條約御批准ノ件ヲ外務大臣請議即日内閣受付

同 日

法制局回付即日上申

同條約御批准ノ件閣議決定（臨時閣議）

七月二十四日

樞密院へ御諮詢奏請即日同院へ御下付

八月九日

條約正文印刷中印刷不鮮明ノ箇所ノ訂正方ノ伺ヲ爲ス

八月十日

右訂正方同濟書類ヲ樞密院ニ回付ス

十月一日

樞密院本會議開催條約御批准ノ件ヲ可決ス即日樞密院ノ可決上奏案内閣へ御下付

十月二日

條約御批准奏請ノ件ヲ閣議決定ス（臨時閣議）即日上奏裁可ヲ仰グ